

THE LONGINES WORLD'S BEST RACEHORSE RANKINGS

The official listing of the world's best racehorses

(For 3yos and upwards which raced between 1st January 2016 and 11th September 2016)

第7回ロンジンワールドベストレースホースランキングにおいては、パシフィッククラシックステークス(G1)を完勝し、レーティングを128ポイントから133ポイントに上げ、再びトップの座についたカリフォルニアクローム【133】を筆頭に、上位の順位に大きな変動があった。

LONGINES World's Best Racehorse Rankings

Leading Horses

Rank	Horse	Rating	Trained
1	CALIFORNIA CHROME (USA)	133	USA
2	A SHIN HIKARI (JPN)	129	JPN
2	ARROGATE (USA)	129	USA
4	ALMANZOR (FR)	127	FR
4	WINX (AUS)	127	AUS
6	FROSTED (USA)	126	USA
7	MAURICE (JPN)	124	JPN
7	NYQUIST (USA)	124	USA
7	POSTPONED (IRE)	124	GB
7	WERTHER (NZ)	124	HK

カリフォルニアクロームは昨年の米古馬牝馬チャンピオンであるビホルダーやG12勝のドルトムントなどとパシフィッククラシックステークスで対戦したが、これらを難なく降した。同馬は5馬身差の逃げ切り勝ちを収め、今年はこれで5戦5勝と完璧な成績である。この他にもドバイワールドカップ(G1)、サンディエゴハンデ(G2)、サンパスカルステークス(G2)、さらにはトランスガルフエレクトロメカニカルトロフィーを制している。

新たにランキングに加わったもので特筆すべきはアロゲート【129】で、エイシンヒカリ【129】と並んで今回2位タイとなった。重賞初挑戦となったトラヴァーズステークス(G1)を13馬身半差の大差で制するとともに、37年間破られていなかったコースレコードを更新し、歴史に名を刻んだ。今後はブリーダーズカップクラシック(G1)に向けて調整される予定で、同競走ではカリフォルニアクロームとの対戦が見込まれる。

また、仏ダービー(G1)優勝馬アルマンゾル【127】も、今回新たにランクインした中で注目の一頭である。同馬は強敵揃いの愛チャンピオンステークス(G1)で、2着のファウンド【122】に3/4馬身差をつけ制した。3着はマインディング【120】であった。

この他では牝馬トップのウインクス【127】が、南半球の春シーズン初戦のウォリックステークス(G2)を制し、連勝を続けている。チェルムズフォードステークス(G2)は馬場状態を考慮して出走を回避したが、今週土曜日に施行されるコルゲートオプティックホワイトステークス(G1)に出走予定である。英国ではポストポンド【124】が英インターナショナルステークス(G1)でハイランドリール【121】やムタケイエフ【120】を降し、連勝を伸ばした。またアメリカでは、ソングバード【122】がアラバマステークス(G1)を勝ち、未だ無敗である。

フrintシャー【123】は2015年に続きソードダンサーステークス(G1)を1馬身3/4差で制し、これにより4年連続のランクインとなった。また、メッカズエンジェル【121】がリマート【120】を降し、ナンソープステークス(G1)を連覇したが、これにより今年初めてランクインした。

フランスでは、日本ダービー(G1)優勝馬マカヒキ【121】が、目標とする凱旋門賞(G1)への前哨戦であるニエル賞(G2)を制した。また凱旋門賞トライアルが行われた同日には、ヴァダモス【121】がムーランドロンシャ

ン賞(G1)を制した。同馬は前走のジャックルマロワ賞(G1)ではリブチェスター **【121】** の2着となっていた。